

科目名(英語名)	科学技術コミュニケーション入門(Introduction to Science Communication)				
単位数	2	配当年次	1	開講時期	前期
対象コース	【全コース】				
科目群	【学部共通科目群】				
全教員名	辻 義人				
授業概要	<p>本講義は、科学技術コミュニケーションの実践的理解を促すため、主に三つの活動を行う。第一に、科学技術コミュニケーションの背景と理念の理解である。ここでは、科学技術と倫理(ヒトクローン、遺伝子組み換え食品、ヘルスケアと個人情報等)に注目する。第二に、「ヘルスケア・健康」技術について、基礎的な仕組みを理解する活動である。ここでは、教育用小型マイコン(英BBC micro:bit)を用いたプログラミング活動を体験する。第三に、一般市民を対象としたプログラミング講座のサポーターとして、協働的にプログラム製作に取り組む活動である。本講座の履修者は、一般市民と協働して、ヘルスケア機能の設計と実装に取り組む。これらを通して、科学技術コミュニケーションに関する体験的な理解を促す。</p> <p>本科目は、社会的文脈に基づく説明活動研究に従事する教員が担当する。また、キャンパス・コンソーシアム函館、サイエンス・サポート函館の協力を得て開講する。</p>				
キーワード	科学技術、コミュニケーション、健康とヘルスケア、社会連携、専門家と一般市民の協働				
到達目標	<p>(1) 科学技術コミュニケーションの理念について理解し、身近な事例に注目し問題点を整理する。</p> <p>(2) 科学技術「ヘルスケア・健康」に注目し、教育用小型マイコンを用いて、ヘルスケア機器の基礎的な仕組みを理解する。</p> <p>(3) 市民講座「ヘルスケア機器を支える科学技術プログラミング講座(仮称)」において、一般市民との協働を通じた作品製作を経験し、現実的な科学技術コミュニケーションのあり方の知見を深める。</p>				
授業計画	<p>本講義は、三部の活動から構成される。各部の活動内容の配分は、本科目の履修者(はこだて未来大生、函館圏大学の大学生、一般市民)の状況に基づき調整する。</p> <p>第一部:科学技術コミュニケーション(サイエンスコミュニケーション)の背景と理念</p> <ul style="list-style-type: none"> - 科学技術コミュニケーションの必要性和現状 - 科学技術における専門家と一般市民との関わり方の変容 - 今後の科学技術コミュニケーションに期待される要素 <p>第二部:私たちの健康と科学技術との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> - ヘルスケア・健康意識の高まりと科学技術 - ヘルスケア機器を支える科学技術 - 教育用小型マイコンを用いた簡単なヘルスケア機器の設計と実装 <p>第三部:科学技術コミュニケーションの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> - 一般市民を対象としたプログラミング講座の実践 - 「科学技術の専門家」として期待される協働スキルトレーニング - 科学技術コミュニケーションに求められる要素のまとめと振り返り 				
事前。事後の学習	本講義は、夏期集中講義(8月上旬に開講)である。本講義の履修に際して、科学技術コミュニケーションに関する書籍、論文等資料の読解、また、実際に科学技術コミュニケーションに関するイベントの聴講、これらの経験があることが望ましい。				
成績の評価方法	出席状況、講義中の発言や参加度、事後提出のレポートに基づき、総合的に評価を行う。				
教科書・参考書	<p>教科書は指定しない。必要な資料は、適宜配布する。なお、科学技術コミュニケーションの理解を促す参考書として、以下の書籍を紹介する。</p> <p>ギルバートJ.K. and ストックルマイヤーS.(2015) 現代の事例から学ぶサイエンスコミュニケーションー科学技術と社会とのかかわり、その課題とジレンマ、小川義和・加納圭・常見俊直(監訳)、慶應義塾大学出版会</p>				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、キャンパス・コンソーシアム函館における単位互換科目、南大阪地域大学コンソーシアムにおける広域単位互換科目である。また、サイエンス・サポート函館「科学寺子屋」として、一般市民が履修する。 ・履修希望者が多数の場合、何らかの方法(抽選、または、レポート提出等)による履修制限を行う。 ・単位認定には、全日程(3日間)の参加が必要である。開講場所は調整中である。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・履修に際して、ノートPCを持参すること(OSは問わない)。 ・講義内容に関して、プログラミング経験の有無は問わない。 				